

会議名	令和６年度 第２回 板橋区産業活性化推進会議
開催日時	令和６年１２月１６日（月）１０時００分から１１時３０分まで
開催場所	板橋区役所 災害対策本部室
出席者	13 人 〔委員〕堀田 和彦氏 山田 敏之氏 岩月 宏昌氏 齊藤 得彌氏 大矢根 康隆氏 平松 有恒氏 百中 さおり氏 家田 彩子氏 〔区側出席者〕藤原課長 池田課長 木内支所長 〔産業振興公社〕木曾事務局長
会議の公開（傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u>
傍聴者数	０人
議 題	（１）板橋区産業振興構想２０３５策定状況のご報告 （２）意見交換
配 布 資 料	1 板橋区産業振興構想２０３５策定状況のご報告 2 参考資料：板橋区産業振興構想２０３５策定にかかる検討会 ご意見サマリ 3 板橋区「令和６年度 区内主要産業現況調査」報告書
所 管 課	産業経済部 産業振興課 産業支援係 （３５７９－２１７２）
以下、議事要点	
●確認及び紹介 ▷<u>産業振興課長</u> 配布資料の確認、関係課長の紹介。 ●会議の公開について ▷<u>会長</u> 付属機関等の会議の公開に関する基準に基づき公開されることを説明。 ●議題（１）板橋区産業振興構想２０３５策定状況のご報告 ▷<u>産業振興課長</u> 資料１「板橋区産業振興構想２０３５策定状況のご報告」に基づき説明。 ▷<u>委員からの質問・意見</u> （委員） ①資料８ページに記載の３つの柱を出したプロセスについて教えてほしい。	

② 2 つ目の柱「イノベーションを起点として成長志向の産業育成」を最重要戦略に位置付けた背景について説明してほしい。また、評価軸があれば教えてほしい。

（事務局）

① 以前お示しした、本構想の策定方針（変革・連携・集積）からもつながっている。区の強み・弱みと世の中の潮流から行った分析および検討会や企業ヒアリングで直接事業者から聞いている話などをもとに、3 つの柱を設定している。

② 複雑化する社会課題を解決するためには一企業だけではなく、区内外の企業などから新たな産業の創出・育成が必要と感じている。委員の観点でご提案いただければ大変嬉しい。

（委員）

① 3 つの柱がどのようなプロセスから出てきたか分かると、腹落ちする。また数値的な目標や優先度があると、ストーリー性もあり、みんなに分かりやすいと思う。

（委員）

弱みを機会としてどう改善するか、脅威を強みとしてひっくり返すような転換戦略があると、3 つの柱につながりやすいのでは。

（委員）

資料 6 ページに、「板橋区でスタートアップが少ない」と記載があるが、根拠があるか。スタートアップの数を把握することは難しいと思っている。

（事務局）

区内の事業者の開廃業を把握することは困難で、正確なスタートアップ数は把握しがたいが、他自治体に比較すると少ないと感覚もある。

（委員）

板橋区の強みとして光学・印刷があげられているが、出荷額等での数値データはあるか。東京商工会議所板橋支部で優秀技能者・技術者（ファインワーカー）を表彰しており、当初は印刷・光学の技術者が多かったが、いまは他のものづくり企業が多くなっている。今もなお、光学・印刷が区の強みといえるか。

（事務局）

印刷・光学が板橋区で発展した歴史的背景含め、価値があると認識している。出荷額等という観点からいうと、必ずしも高いといえない可能性がある一方で、板橋産の絵本のシェアが全国でも高いことは、価値が高いといえると認識している。

製造品出荷額等が過去に当区が 1 位となったときには、印刷の成果は大きかった。板橋ブランドを確立し評価していくには、印刷・光学の力が大きいと考えている。

（委員）

スタートアップは東京都でも推進しており、支援施設が都心にある。一方で板橋区は都心に比べ地価（家賃）が安価であるので、誘致するメリットとなるのではないか。

（事務局が委託するコンサル）

スタートアップとは、単なる“創業”ではなく、民間から資金調達し急成長する企業という定義として、民間がとっている数のデータは存在する。その中で、板橋区で

は、創業比率は伸びているものの、スタートアップは少なく、成長志向の創業という観点ではあまり先進的とはいえない。

（委員）

6 ページに「企業間の繋がりが少ない」とあるが、根拠は何か。

（事務局）

東京商工会議所板橋支部の分科会や、当推進会議の検討会においても複数の企業から声をいただいている。

（委員）

「区民生活と産業の融和」について、工業と区民生活をどのようにつなげるかの具体的なイメージはあるか。

（事務局）

区内には準工業用地域（工場と住宅がともにある地域）が複数ある。住民は近くにある工業の価値を知りえないことから、騒音等へのご意見から企業が操業しにくい点がある。企業が取り組む周辺住民への配慮も知ってもらうことで、区民との共存がしやすい環境ができると考える。

また、イノベーションにより開発する新しい製品・サービスを、区内で実証・実装することでその価値を区民のみなさんに体感してもらえればと考えている。

（委員）

改めての確認となるが、本日のゴールはどこにあるか。

（事務局）

資料 1 「板橋区産業振興構想 2035 策定状況」の 8 ページから 10 ページに記載の、3 つの柱と 7 つの戦略、業種ごとの方向性について、委員のみなさんの確認とご意見をいただくことを目的としている。

（委員）

構想策定に向け、業種ごとに 3 つの検討会を実施しているが、キーワードとなっている「つながり・連携」を考えると、検討会相互のネットワーク形成が重要となってくると思われる。各検討会での協議事項の共有の場はあるか？

（事務局）

構想策定の課程においては必要に応じて、検討会間の連携や共有の場を設けたいと考えている。構想策定後の具体的な取組を行っていくうえでも業種を超えた連携を図る必要性は認識している。

区民生活の融和について、いたばし産業見本市 DAY3 のテクノロジープレーパークでは、産業の発展が区民生活を豊かにするということを伝えたく企画した。1300 人程に会場いただき、企業からも喜びの声もいただいた。（ターゲットとしていた子どもだけではなく、その親ともつながることができた）

また、区内企業同士の連携という視点で、出展企業の交流会前に、区内大学の 3 名に登壇いただき、パネルディスカッションを開催、テーマを「学生の就活の現状」と

し、活発な企業の交流ができたと感じている。区民生活の融和については、様々な事業の中に、その視点を盛り込み、企業同士を有機的につなげていきたい。

騒音・匂い・景観などの課題は、ものづくり企業地域共生推進助成金を用意し、ご活用いただいている。

●議題（２）意見交換

▷委員からの質問・意見

（会長）

少し早いですが、議題（１）について意見が出尽くしたようなので、各委員から意見をいただく時間としたい。順番にご意見をどうぞ。

（委員）

３つの柱に違和感はなく、イノベーションを最重要とすることもその通りと思う。具体的な中身については、スタートアップ育成も大事であり、既存企業の強みを維持することも大事であるので、バランスを重視してほしい。そのうえで、スタートアップの方との接点を持って課題や悩みをつかんで支援してほしい。経営改善チームの板橋モデルは全国的に有名だが、スタートアップの板橋モデルができるとよい。

また、若い社員の意見を聞く機会があるとよい。

（委員）

感想になるが、企業は各自、個社での努力が必要だと認識していた。しかし、産業全体の抱える課題があるのだとすれば、行政の支援が必要だと感じた。スタートアップが集まる自治体ランキングや働きやすい企業が多いまちランキングなどの評価を活用・創出して板橋ブランドを強化していけるとよい。

また、光学・印刷は強みでもあり弱みでもある。高い技術力があっても印刷にこだわってでは衰退してしまう。スタートアップ誘致で新しい企業をとりこみ、活性化する方向に向かう時期だと思う。

（委員）

３つの柱や戦略は共感できる。企業同士の繋がりには大事。創業マスタースクールでは、同時期の創業者同士がつながることができるが、時期が重ならないと出会う機会がない。同業種のコミュニティができる機会を行政が支援してもよいのでは。

（委員）

３つの柱は１０年後もブレないものと思う。一方、施策は、これまでのコロナの時もあったように、世の中の流れで変えていってほしい。最近、人材の流動化を耳にするが、交流した先に引き抜きがあると何もならないので、難しさも感じる。

東京都のイノベーションベースや柏の葉などのスタートアップ支援とも連携しつつ板橋でさらにより支援ができるとよい。

板橋で大工を育てよう！と、区内の団地の空き室などを提供し、育成するなど尖った取組があってもよいのでは。

（委員）

商業は特に変化が激しいので、「継続・強化」だけでは難しい。また、危機管理（震災・感染症など）に関してのサポートも必要と感ずるため示されるとよいと感じた。商業の組織は、役員の成り手の確保が難しい。10年でどんな工夫をしていくか、尽力いただきたい。ただ一方で、人口構成から高齢者多く、年齢が高くなると廃業することが多いのが商業。高齢者にとって買い物しやすくなる視点を取り入れ、安心して商店街を利用でき、買い物難民がなくなる取組も必要。企業と商店街のスタートアップは全く別ものとして考えてほしい。

（委員）

構想について、もう少し数字で示してもらえると分かりやすく、判断しやすい。ユーザー、事業者の目線で考えると自ずと答えがでるのでは。スタートアップは資金調達、経営のヒント、連携先の紹介はあるのかなど、不安をクローズアップし政策に盛り込むと、板橋区で起業することへのメリットが示せ、活性化につながると思う。板橋区の産業は一部の区民のみ知っているが、多くは知らない現状と思われる。大きなデジタルサイネージに掲載し紹介できると、各企業への安心につながるので、区からの紹介があるとよい

（委員）

SWOT分析に基づき導かれた3つの柱と7つの戦略は良いと思う。産業ごとの枠がしっかりあって、9ページ「施策イメージ」までの段階は良いが、業種ごとの方向性にするとブラックボックスとなってしまうがち。重要と位置付けた「連携」が薄れてしまったりする。9ページと10ページの間に大きな壁を感じる。9ページまでを具体的につくって、業種ごとに区切らないでもいいのでは。強みが弱みにもなる、強みを活かし、ネットワーク・連携、スタートアップを生み出すという流れを出してほしい

（事務局）業種の方向性については、板橋の地域の特性を考慮し差別化のため、別建てで示している。全体と合わせて示していきたい。皆さんにいただいたご意見を踏まえてつくっていききたい。

会議の内容は、以上のとおりである。